

令和7年度「かなざわ幼児教育みちしるべ」活用推進事業 「結果報告書」

施設名 みはる幼稚園

【連携小学校】

金沢市立鞍月小学校

【連携幼児教育施設】

くら月こども園 あけぼのこども園

【主な取り組み内容・経過】

- ・ 園内研修会や意見交換会の実施日や内容、テーマ、参加人数、メンバー等を記載してください
- ・ お子さんの姿や保育者、小学校の先生の思いも含め、具体的に記載してください
- ・ 写真や資料取り組みにおいて明らかになったことや成果、新たな課題等についても、できるだけ詳しく記入ください

1. 取り組みの背景とねらい

従来の園単独による連携には、活動内容や情報共有に限界があった。鞍月小学校校区内の全就学前施設（幼稚園・保育園・認定こども園）が足並みを揃えて小学校と協議を行うことで、すべての子どもが環境の変化に戸惑うことなく、希望を持って進学できる「地域ぐるみの接続支援」を目指した。複数園の視点を交えることで、一園では困難だった多様な交流プログラムの検討が可能となった。

2. 年間スケジュール

5月

顔合わせ・年間スケジュール確認（担当者）

5月27日 小学校運動会見学（年長児）

6月2日～8日 学校公開見学（教職員）

7月31日：鞍月小の先生 幼稚園見学



研修の深掘り：「5歳児の終わりまでに育ってほしい10の姿」をベースとした意見交換会を実施。「幼児期の遊び」と「学び」の関係を語り合う。どのような姿が「学び」なのか具体的に説明できるように子ども園側は準備をする。

8月28日：幼小接続研修会（鞍月校区全体）

内容：講師の先生をお招きし、研修を受講する。鞍月校区の幼小連携では、何を「つなぐ」のか話し合う。子ども同士の交流はもちろん、心のつながいを大切にしていくことを確認する。また、保護者向けに生活リズムの大切さを各園で保護者に発信することを確認。

講師：松本謙一（富山県南砺市教育長）

例：子どもが生まれて初めて出会う「先生」は認定こども園の先生です。その先生が「ひいきをせず、公平に扱ってくれる」ことはとても大切な経験です。また、「何か困ったときに、先生は助けしてくれる存在で、自分の応援団」と感じ、安心感を抱き小学校へ入学することの重要性を確かめ合います。

9月2日～4日：夏休み作品展見学ツアー

小学生の夏休みの自由研究を見に行く。

10月1日：年長担任の小学校1日体験

ポイント：給食の準備、掃除の仕方、休み時間の過ごし方を重点的に観察。

事後活動：体験した園の先生が、子どもたちに「小学校のひみつ」を写真で見せる報告会を開催。

2月12日：カリキュラム検討会（最終調整）

内容：3月のウォークラリーの詳細を詰める。

3月1日：鞍月小全クラス開放・学校ウォークラリー

ねらい：校内を探検することで入学に対する不安を軽減し、期待感を高める。また、同じ小学校に入学する近隣園の友達と交流し、親しみをもち、入学への期待につなげる。

おさえておきたいポイント：不登校の要因の一つは「生活リズムの崩れ」です。校長先生に「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を話してもらい、心にとめてもらう。

事後活動：園に戻り、見つけたものや驚いたことを話す。

3月末日

次年度のカリキュラムについて話し合う



【令和7年度の活動の成果・考察】

地域の3園合同で取り組んだことにより、自園内にとどまらない「年長児同士の交流」が実現したことは大きな成果である。初対面の相手に対し、緊張しながらも勇気を出して自己紹介をする姿は、社会性の芽生えを感じさせる貴重な機会となった。

年間4回の小学校訪問では、回を重ねるごとに学校環境や校長先生に対しての親近感が高まり、「未知の場所への不安」が「進学への期待感（わくわく感）」へと変化していく過程が見て取れた。

また、小学校教諭との合同研修においては、形式的な座学に留まらず、「教育者としてのマインド（資質・能力の育成）」を共有できた。互いの専門性を尊重しつつ、接続期における「大切にすべき視点」を再確認できたことは、今後の円滑な接続に向けた大きな一歩となった。

地域や小学校とのつながりが深まる中で、子どもたちがドキドキしながらも勇気を出して自己紹介をする姿に、大きな成長を感じることができました。こうした「人や場所への親しみ」が、小学校生活への安心感の土台となります。今後も園と学校が手を取り合い、子どもたち一人ひとりの育ちを支える温かな連携を続けていきたいと考えています。

【令和7年度の活動を終えての所感】

地域の3園が手を取り合い、年間を通じて活動を共にできたことは、子どもたちだけでなく私たち職員にとっても大きな財産となりました。自園の中だけでは見られない、他園の友だちに対する「勇気ある関わり」や、回を追うごとに小学校を「自分の場所」として親しんでいく子どもたちの姿に、連携の確かな手応えを感じています。

園同士が連携し、同じ目標に向かって小学校との距離を縮めていく過程は、地域全体で子どもたちの育ちを支える温かな土壌を作ることにも繋がりました。この交流で育まれた「わくわくする気持ち」をそのままに、子どもたちが安心して新しい門出を迎えられるよう、今後も園の垣根を越えた連携を一層深めていきたいと願っています。